

① ピアサポート活動事例（香川県）

分類:

本人・家族の悩みを共有する相談支援

認知症当事者との講演会開催

当事者同士の交流会開催

その他

○毎週金曜日に認知症カフェで認知症の本人やその家族がピアサポート活動（個別相談・参加者同士の交流）を実施

運営団体基本情報

● 運営団体名	三豊市立西香川病院（香川県委託事業）	● 事業開始年	ピアサポート活動 平成29年度～（香川県委託 令和元年度～）
● 連絡先	住所：香川県三豊市高瀬町比地中2986-3 TEL：(0875)72-6158 Mail：nishikagawa_soudan@yahoo.co.jp	● ホームページ	http://www.nishikagawa.jp/
● スタッフ構成	令和元年度：精神保健福祉士1名、相談員（ピアサポーター）1名（令和2年度：社会福祉士1名、相談員3名）		

活動状況

● 活動日時	毎週金曜日 10:00～15:00（出入自由）	● 活動場所	三豊市立西香川病院
● 平均参加者数	1日当たり20人程度（認知症の本人、家族）	● ピアサポーター数	令和2年度：3名 内訳：認知症高齢者当事者2名、当事者の家族 1名

【活動の特徴】

● 取組の内容	三豊市立西香川病院（香川県認知症疾患医療センター）の病院の元職員宿舎を会場として毎週金曜日に認知症カフェを開催し、認知症の本人や家族が相談員として、参加者同士の交流や個別相談に応じている。	● 活動経費（財源）	令和元年度 香川県認知症疾患医療センター運営事業 委託費（日常生活支援機能分）4,300千円 財源：認知症疾患医療センター運営事業 4,300千円
● 取組の実績	令和元年度 認知症カフェ 毎週金曜日 実施 （参加者：本人 延べ514人、家族 延べ269人）	● その他、特記事項	三豊市立西香川病院は認知症カフェの運営やピアサポート活動に積極的に取り組んでおり、香川県では認知症疾患医療センター運営事業の委託やピアサポーターへの「かがわ認知症希望大使」の委嘱など、病院と連携・協力して認知症施策を推進している。 ピアサポーターによる相談支援を受けた認知症当事者のなかから、ピアサポーターの相談業務の補助者が誕生するなど、新たなピアサポーターの養成に繋がっている。 この取組は、参加者への直接的な効果だけでなく、市町職員や関係者等に向けた研修等での情報提供を通じて、県内でのピアサポート活動の推進にもつながっている。

● 取組の効果

- 参加者同士の交流（集団でのピアサポート）
同じ経験をした人たちと話をすることでの共感が生まれる。社会的に孤立しがちな人にとっての居場所になりえる。
 - 個別相談（ピアカウンセリング）
ふさぎ込んでいた人が相談中に涙を流し、明るい表情で帰るケースもある。回数を重ねるごとに当事者同士の共感が生まれ、自信を取り戻される人が多い。
- 【参加者の声】
- ・ 他では話しにくいこと（自身の認知症の悩みなど）もここでなら話せる。
 - ・ （夫は）何にもしないで閉じこもっていたのに、ここに来るようになって生活に活気が出ている。常連の人に会うのを楽しみに来ている。
 - ・ 運転免許の返納や診断後の気持ちの持ち方など、当事者同士や家族同士でアドバイスし合う場面もある。



② ピアサポート活動事例（新潟県）

分類：

本人・家族の悩みを共有する相談支援

認知症当事者との講演会開催

当事者同士の交流会開催

その他

○認知症当事者が不安や悩みを事前申込なしでピアサポーターへ相談できる相談会を月1回開催

運営団体基本情報

● 運営団体名	特定非営利活動法人みどりの森	● 事業開始年	平成26（2014）年
● 連絡先	住所：新潟市中央区神道寺2-4-24 TEL:080-7773-7940 Mail:dcmidori@midori-gr.jp	● ホームページ	無
● スタッフ構成	役員4名、社員8名		

活動状況

● 活動日時	毎月第4月曜日 13時30分～15時30分（年7回）	● 活動場所	当法人カフェコーナー
● 平均参加者数	3人（ピアサポーター1人、認知症の本人1人、家族1人）	● ピアサポーター数	1人（若年性認知症当事者）

[活動の特徴]

● 取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症当事者（またはその疑いのある人）が来所し、若年性認知症当事者によるピアサポーター（ピアカウンセラー）と面談することにより、不安なことや悩みを打ち明けることのできる場とする。 ・運営団体は認知症疾患医療センター（総合リハビリテーションセンターみどり病院）と連携しており、その家族に対しても認知症疾患医療センターに所属する若年性認知症支援コーディネーターでもある精神保健福祉士が話を聞くようにしている。
● 取組の実績	<p>○相談会</p> <p>■令和元年度 令和元年8月～令和2年3月 月1回 計7回 7回中個別相談が5回、複数相談者によるグループ相談が2回</p> <p>■令和2年度 令和2年6月～11月 月1回 計5回（9月開催時は当事者参加なし） 5回中個別相談が3回、複数相談者によるグループ相談が2回</p>
● 取組の効果	<p>【運営者】相談する側・される側という枠を外して、双方が相手の意見を尊重しながら話ができている。それが相談にとどまらず、交流の場になっている。</p> <p>【ピアサポーター】「いろんな人がいるから、いろいろな話が聞けて楽しい。自分の中でも手探り状態だけど、詳しい中身を知っているわけではないので無理やり聞き出そうとは思わない。」</p> <p>【同行する家族】家族同士で情報交換ができる。本人達が話をしたり、笑顔を見せる様子を見て「家ではあんなに話さない」と感じる。</p>
● 活動経費（財源）	<p>認知症総合戦略推進事業：1,067千円 内訳）消耗品、会場費等運営費（1,017千円） ピアサポーター（ピアカウンセラー）への活動謝礼・交通費（50千円）</p>

●その他、特記事項

・相談会は、参加したいと思ったら気軽にきてもらえるようにという意図により、事前申込制にしていない。ピアサポート活動の広報は、医療センターのホームページへの掲載やパンフレットの周知を行っている。

・ピアサポーター（ピアカウンセラー）および相談者がリラックスできるように、若年性認知症支援コーディネーターによる声掛けや茶菓の用意などを行っている。

・現在活動しているピアサポーターは、連携先の認知症疾患医療センターへ通院し、センターが開催する認知症カフェの参加者であった。昨年度からピアサポーターとして活動している。



お問い合わせ先 NPO法人みどりの森

TEL 080-7773-7940 新潟市中央区神道寺2-4-24
8:30～17:30（月曜日～金曜日 年末年始・祝日を除く）

相談窓口のチラシ

③ ピアサポート活動事例（神奈川県）

分類:

本人・家族の悩みを共有する相談支援

認知症当事者との講演会開催

当事者同士の交流会開催

その他

- 若年性認知症当事者同士の交流会を月1回開催し、当事者による助言などを実施
- 若年性認知症の本人主体による多世代交流の居場所づくり（モデル事業）を推進

運営団体基本情報

● 運営団体名	神奈川県	● 事業開始年	平成30年1月
● 連絡先	住所：神奈川県横浜市中区日本大通1 Mail:anshinkaigo@pref.kanagawa.jp TEL:045-210-4846	● ホームページ	https://www.pref.kanagawa.jp/docs/u6s/jakunenmeeting.html
● スタッフ構成	若年性認知症支援コーディネーター（2名）等		

活動状況

● 活動日時	毎月第3火曜日 10時～11時（年12回）	● 活動場所	かながわ県民センター等
● 平均参加者数	12人（認知症の本人4人、家族2人、関係者6人 など）	● ピアサポーター数	不定（各回4人程度）※登録制度は無し

【活動の特徴】

● 取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者同士の交流会（本人ミーティング） 認知症の本人が集い、本人同士が自らの体験や希望、必要としていることを語り合い、自分たちのこれからのより良い暮らし、暮らしやすい地域のあり方を発信する。参加回数が多い当事者による助言などのピアサポート活動を実施。 ・当事者からの発信を契機とした多世代交流の居場所づくりの推進 令和元年9月から若年性認知症の人の活躍できる仕組みづくり事業を行うため、若年性認知症支援コーディネーターを新たに1名配置。上記の交流会での当事者等からの発言をもとに、若年性認知症の本人主体による多世代交流の居場所づくりへの準備、子どもの居場所（子ども食堂等）と連携した事業展開によるモデル事業を実施した。（令和2年度まで）※事業概要は別紙参照。
● 取組の実績	<ul style="list-style-type: none"> ○令和元年度 ・14回実施。平均参加者：本人4人、家族2人、関係者5人 など ○令和2年度（11月末現在） ・3回実施。平均参加者：本人5人、家族3人、関係者6人 など ※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、8月まで中止
● 取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者へのアンケートでは、「気持ちが明るくなった（本人・家族）」、「行く場所が増えた（本人・家族）」、「仲間同士の励みで、自分も頑張ろうという気持ちになった（本人）」との回答が集まった。 ・若年性認知症支援コーディネーターが認知症当事者やその家族からの意見をもとに企画運営を行い、スポーツ活動や女性同士の交流につながった。 ・ヤングケアラーからの希望で、若い家族同士が交流する機会をつくるなどの活動も広がっている。 ・多世代交流の居場所づくりを通じて、認知症当事者の交流だけでなく、地域の幅広い世代との交流が生まれ、若年性認知症当事者の社会参加活動につながった。

● 活動経費（財源）	若年性認知症支援コーディネーター業務委託（9,193千円）内で実施
● その他、特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本人同士、家族同士の交流が図れるよう部屋を2つに分けて実施 ・近くのコーヒーショップに、コーヒーのテイスティングの協力をいただいた。
● 交流会の様子	

若年性認知症の人の活躍できる仕組みづくり事業概要

1 目的

若年性認知症の人が役割を担うことができる居場所の一つとして、認知症カフェ等を活用し、若年性認知症の本人主体による多世代交流の場を設置するモデル事業を実施する。

2 事業内容

(1) 多世代交流の居場所づくりへの準備

ア 地域調整

○ 若年性認知症の人の居場所づくりにおいて、様々な機関と調整する。

イ 若年性認知症の人による企画会議の開催

○ 事業を本人主体で企画するため、若年性認知症支援コーディネーターのサポートにより「子どもと一緒に自分たちができること」等を議題に企画会議を開催する。

(2) 子どもの居場所と連携した事業展開

ア 居場所づくり活動

○ コーディネーターやオンラインジパーターが支援して、子どもの居場所や認知症カフェで事業を展開し、若年性認知症の人が役割を担う。

○ 実施に当たっては、出席した若年性認知症の人へ交通費程度の謝礼を支払うなど、やりがいのしくみづくりを進める。

イ 若年性認知症の人の居場所づくりの必要性についての普及啓発

○ 若年性認知症の人の理解を深め、更に居場所や社会参加の必要性について、普及啓発を図り居場所や社会参加が広がるようすすめていく。

ウ 事業評価

○ モデル事業として、事業評価を行う。

3 実施計画(モデル地区)

(1) 南足柄市「金ちゃん農園」令和元年11月1日より月1回

市の認知症地域支援プロジェクトから平成28年より始まった事業。市では、認知症の方と一緒に月1回農園を実施している。農作業(草むしり・植え替え・芋ほり等の収穫)を手伝いながら多世代交流を行う。

※令和2年度は新型コロナウイルスの影響により中止していたが、感染予防に留意し10月から若年性認知症の人も参加

(2) 逗子市「ずし子ども0円食堂プロジェクト」令和元年11月9日から月1回

子ども食堂を実施しているボランティア団体と連携し、子どもたちと一緒に昼食の準備や片付け、ふれあい(サッカー等)により、活動に参加する。

※令和2年度は新型コロナウイルスの影響により休止中

4 実施期間

令和元年9月1日～令和3年3月31日



④ ピアサポート活動事例（香川県）

分類：

本人・家族の悩みを共有する相談支援

認知症当事者との講演会開催

当事者同士の交流会開催

その他

○若年性認知症の本人、家族を対象にした交流カフェを開催し、当事者同士、その家族同士による情報交換・交流を実施

運営団体基本情報

● 運営団体名	医療法人社団 以和貴会 いわき病院（香川県委託事業）	● 事業開始年	平成29年度～
● 連絡先	住所：香川県高松市香南町由佐113-1 TEL：(087)879-3533 Mail：iwaki-sc@oregano.ocn.ne.jp	● ホームページ	http://www.iwaki-hospital.or.jp/ninchi/
● スタッフ構成	精神保健福祉士1名（若年性認知症支援コーディネーター）		

活動状況

● 活動日時	年4回程度 土曜日 13:30～15:00	● 活動場所	医療法人社団 以和貴会 いわき病院
● 平均参加者数	1回当たり20人程度（若年性認知症の本人、家族）	● ピアサポーター数	ピアサポーターは定めていない

【活動の特徴】

● 取組の内容	いわき病院（香川県若年性認知症支援相談窓口、香川県認知症疾患医療センター）にて年4回程度、若年性認知症の本人、家族を対象に「交流カフェ」を開催している。
● 取組の実績	令和元年度 交流カフェ 年4回 実施 （参加者：本人 延べ26人、家族 延べ57人） ＜交流カフェの内容＞ 全体交流会の後、本人と家族に分かれた交流会を実施。 ● 全体交流会 就労支援サービスを利用している本人・家族からの体験談など当事者等による講話のほか、レクリエーションや若年性認知症に関する情報提供などを行っている。 ● 本人と家族に分かれた交流会 本人と家族に分かれて、当事者同士が情報交換を行ったり交流を深めたりしている。
● 取組の効果	本人の「自分と同じように診断を受けた人と会って話をしたい」というニーズ、家族の「ほかの家族の人と話をしたり相談をしたい」というニーズを受けて、交流カフェは、悩みや情報の共有と仲間づくりや交流の場を目指している。 【参加者の声】 本人：自分の気持ちに共感してくれる人がいて嬉しかった。 家族：困っていることを話せてスッキリした。 ほかの人の対応の工夫が聞いてよかった。

● 活動経費（財源）	令和元年度 香川県若年性認知症支援コーディネーター事業 委託費（交流カフェ以外の業務を含む総額） 3,403千円 財源：若年性認知症施策総合推進事業 3,403千円
● その他、特記事項	いわき病院では、香川県内唯一の若年性認知症支援コーディネーターが中心となり、病院スタッフのほか県内の若年性認知症支援関係者とも連携・協力して交流カフェを開催している。 この交流カフェは、当事者同士の交流はもとより本人や家族のニーズ把握にもつながっており、ピアサポートと本人ミーティングの役割を担っている。また、カフェに参加する当事者のなかには、自らの意見・体験談を認知症関係者の研修会などで語る者が出て来ている。 「交流カフェ」の様子は、若年性認知症支援コーディネーターが県内の当事者や関係機関等に年数回配信しているニュースレターで紹介し、参加できなかった人との情報共有や県内関係者の若年性認知症への理解向上を図っている。



⑤ピアサポート活動事例（大分県）

分類：

本人・家族の悩みを共有する相談支援

認知症当事者との講演会開催

当事者同士の交流会開催

その他
(認知症施策推進会議への参加)

- 管内市町村の依頼により、相談会・イベントにピアサポーターの派遣を実施
- ピアサポーターの養成研修を実施（サポーター活動を希望する認知症当事者の名簿登録）

運営団体基本情報

● 運営団体名	有限会社なでしこ（デイサービス事業所）	● 事業開始年	R元年度
● 連絡先	住所：大分市中戸次798番地 TEL:097-535-8091	● ホームページ	
● スタッフ構成	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター（県内市町村の支援ニーズの把握、ピアサポーターの派遣調整を行う。ケアマネージャー・認知症介護指導者の資格を有する） ・認知症ピアサポーター補助相談員（会場への送迎、相談会の司会進行など、ピアサポート活動の支援を行う。認知症介護指導者、介護福祉士の資格を有する） 		

活動状況

● 活動日時	不定期	● 活動場所	大分県内
● 平均参加者数	イベント・相談会ごとに3名程度のピアサポーターを派遣	● ピアサポーター数	5人 内訳) 全員若年性認知症の当事者 男性4, 女性1 大分市4, 豊後大野市1 ※R2年度には4名（高齢者の当事者も含む）が追加で新規登録予定

[活動の特徴]

● 取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・本人ミーティングの開催 ・市町村認知症施策推進会議への参加 ・本人同士の交流 ・認知症カフェへの参加 ・本人、家族への相談対応 等
● 取組の実績	<ul style="list-style-type: none"> ○令和元年度 <ul style="list-style-type: none"> ・市町村からの依頼に基づき、市町村主催の認知症の人の集い等への参加 4回参加 ○令和2年度（R2.11月末現在） <ul style="list-style-type: none"> ・市町村からの依頼に基づき、市町村等が主催する各種事業に参加 認知症施策推進会議への参加5回、認知症ボランティア講座の講師1回、認知症家族支援プログラムで体験発表2回、本人ミーティングへの参加2回、オレンジカフェでの体験発表2回、認知症の人の集いでの体験発表1回 ・本人・家族への個別の相談に対応 随時 <ul style="list-style-type: none"> ※県の若年性認知症支援コーディネーターと連携し、若年性認知症支援コーディネーターが相談支援を行う際、認知症当事者やその家族へピアサポーターによる支援内容を説明し、ピアサポーターによる相談支援の利用を促している。 ※支援を希望する認知症当事者やその家族は、委託事業者の事務所（なでしこ）を訪問し、随時ピアサポーターによる相談支援を受けられる。

<p>●取組の効果</p>	<p>【ピアサポート活動の当事者の意見・感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポート活動を通じて、自分も社会と繋がっていることを感じる事ができた。認知症になったことでできることもあるということを伝えたい。(ピアサポーター) <p>【派遣依頼元からの意見・感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の本人の気持ちが理解できた。(家族、スタッフ) ・本人の気持ちを聞くための言葉かけが分かった。(家族、スタッフ) ・行政の施策に本人の気持ちを踏まえた施策を取り入れることができそうである。(行政職員)
<p>●活動経費(財源)</p>	<p>委託料1,681千円 財源:認知症総合戦略推進事業(ピアサポート活動支援事業)</p>
<p>●その他、特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度事業に事業を開始し、令和2年度は2年目の取組となる。 ・ピアサポーターの養成等は県が直営で行い、ピアサポート活動の実践は認知症支援を活発に行っている介護保険事業所1社に委託して実施している。 <p>【県の事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県が行うピアサポーター養成研修は、県外でピアサポーターとして活動中の当事者を講師として招き、ピアサポーターとしての経験談を語ってもらうなどして、ピアサポーターについての理解を深めてもらうことを目的としている。 受講者のうち、サポーター活動を希望する当事者は名簿へ登録してもらう。 ※これまでの受講状況 <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度 当事者は9名程度。支援者が15名程度参加。 令和2年度 当事者は9名程度。支援者が20名程度参加。 (支援者は、自身が担当する認知症当事者へピアサポート活動を紹介するために参加している) <p>【委託団体の事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者は、ピアサポーター人材の確保、ピアサポーターの登録管理と活動支援、市町村の支援ニーズとのマッチングと派遣の調整等を行う。 ・委託事業者が運営するデイサービスのサービスの利用者への声掛けなどを行い、ピアサポーター活動につなげている。 ・市町村からの求めに応じて認知症カフェや家族の集い、市町村施策会議等へピアサポーターの派遣を行う。



認知症ボランティア講座で、認知症当事者からの視点について発表。



ピアサポーターが自身の経験談を発表する様子。

⑥ ピアサポート活動事例（ 静岡県 ）

分類:

本人・家族の悩みを共有する相談支援

認知症当事者との講演会開催

当事者同士の交流会開催

その他

- 市町からの依頼を受け、ピアサポーターの派遣による相談支援を実施
- ピアサポーターによる講演会の開催や研修講師等の実施

運営団体基本情報

● 運営団体名	静岡県 健康福祉部 健康増進課 地域支援班	● 事業開始年	令和元年度
● 連絡先	住所：静岡県静岡市葵区追手町9-6 TEL: 054-221-2442 Mail:kenzou@pref.shizuoka.lg.jp	● ホームページ	https://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-430/kenzou/
● スタッフ構成	行政職 4名		

活動状況

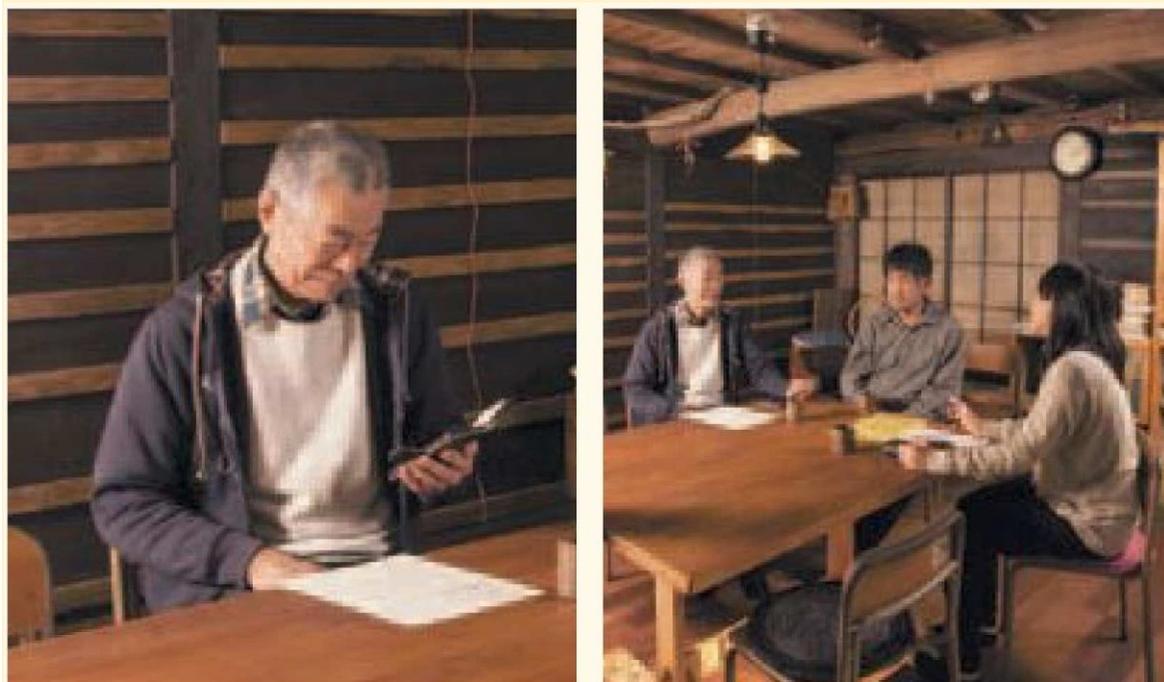
● 活動日時	市町からの派遣依頼の都度	● 活動場所	市町からの派遣依頼場所
● 平均参加者数	相談支援 1回につき3～4人前後（ピアサポーター1人、認知症の本人1～2人、市町職員1人）	● ピアサポーター数	2人（令和2年度10月末時点）

【活動の特徴】

● 取組の内容	2本の柱に沿って取組を実施中。 <相談支援> ・ピアサポーター等による相談支援 <講演会開催> ・シンポジウム等での講話 ・行政職、専門職への助言、研修会での講師等
● 取組の実績	● 令和元年度 ()内は参加者数 <相談支援> ・若年性認知症の人と家族の交流会での相談支援（1回目：14人、2回目：11人） ・ピアサポーター等による相談支援、認知症ケアパス改訂への助言（5人） <講演会開催> ・病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修の講師（102人） ・認知症の本人の声を施策につなげるための静岡県合同ワークショップパネリスト（104人） ・シンポジウム「認知症の人とともに考える～認知症になっても安心して暮らせるまち～」におけるシンポジスト（80人） ・キャラバンメイトスキルアップ研修の講師（43人） ● 令和2年度 ()内は参加者数 <相談支援> ・ピアサポーター等による相談支援（月1回程度、2～3人） <講演会開催> ・市職員向け認知症サポーター養成講座での講師（32人） ・認知症サポーターステップアップ研修での講師（30人） ・認知症カフェでの講話（30人）

<p>●取組の効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●認知症の本人 <ul style="list-style-type: none"> ・私ばかりじゃないんだって勇気づけられた。経験したことを話してくれる機会があると嬉しい。 ・こうして話ができる機会を与えてもらい大変嬉しかった。また、困ったときには連絡をしたい。 ・定期的に集まると良い。話ができる場があることがうれしい。 ●認知症サポーター <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人を「サポートしてあげなくては」、「助けてあげなくては」という意識を持っていたが、「一緒に生きていく」、「一緒に考える」ことが大切だと痛感した。 ●市町・地域包括支援センター <ul style="list-style-type: none"> ・認知症という言葉はネガティブに捉えられがちだが、前向きに生きる人の話を聞いてポジティブに捉えることもできると感じた。
<p>●活動経費（財源）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●令和元年度実績 <p>ピアサポーターへの謝金 6千円×8回=48千円、ピアサポーター活動旅費 20千円 財源：認知症総合戦略推進事業：1/2、認知症の人や家族を支える体制整備事業(県一般財源)：1/2</p>
<p>●その他、特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●市町の先行的な取組を支援（R1:5市町、R2:4市町） ●ピアサポーターの活動に当たっては以下の配慮を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポーターの同行者1名分の旅費を県が負担 ・活動内容の希望を派遣先市町と調整 (講演形式より認知症の人と話す時間をとって欲しい、活動範囲を限定したい、仮名で活動したい等) <ul style="list-style-type: none"> ・遠方への派遣の場合は、県職員の同行や市町の送迎を調整 ●ピアサポーターの内、1名を静岡県希望大使として委嘱(R2)

○相談支援の様子



当事者同士の交流の中で、認知症の方から「予定を忘れてしまう」と相談を受けて、ピアサポーターがスマートフォンの活用をすすめる様子。

○講演会開催のチラシ



管内市町と協力して、認知症の方やその家族、一般市民向けの講演会を実施しています。

⑦ ピアサポート活動事例（愛知県）

分類：

本人・家族の悩みを共有する相談支援

認知症当事者との講演会開催

当事者同士の交流会開催

その他

- 講演会を活用したピアサポート活動の普及・啓発
- 当事者同士の交流会を通じてのピアサポーターの発掘・育成、県内3市への委託によるピアサポート相談会等の実施

運営団体基本情報

● 運営団体名	愛知県、（公社）認知症の人と家族の会愛知県支部（愛知県から委託）	● 事業開始年	2019年度
● 連絡先	住所：名古屋市中区三の丸三丁目1番2号 TEL: 052-954-6494（愛知県） Mail: chiikihoukatu@pref.aichi.lg.jp	● ホームページ	https://www.pref.aichi.jp/soshiki/chiikihoukatu/
● スタッフ構成	愛知県職員、家族の会スタッフ（作業療法士、看護師、社会福祉士、事務職員、当事者家族等）、ピアサポーター		

活動状況

● 活動日時	令和元年度相談会 毎月平均1回 13時～15時（年8回）	● 活動場所	県内3か所（令和元年度 東海市、一宮市、安城市）
● 平均参加者数	18人（ピアサポーター、認知症の本人、認知症の人の家族、ボランティアスタッフ など）	● ピアサポーター数	3人 内訳）若年性認知症当事者（2人） 認知症高齢者（1人）

[活動の特徴]

● 取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ピアサポート活動の普及・啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・講演会（県主催） ピアサポート活動の普及啓発を目的とした講演会 令和元年度：他県で活躍しているピアサポーターを講師とした活動紹介等を実施。 令和2年度：元年度に育成した県内ピアサポーターなどを講師に「認知症の人の社会参加」をテーマとした研修を実施。 ○ピアサポーターの発掘・育成 <ul style="list-style-type: none"> ・当事者同士の交流会（認知症の人と家族の会愛知県支部へ委託） 令和元年度：県内でピアサポーターを務めることができる認知症当事者を十分に確保することができていなかったため、ピアサポーターとして活躍できる認知症当事者を発掘・育成することを目的として実施。 令和2年度：元年度に引き続き、ピアサポーターの育成・発掘のための交流会を実施。 ○ピアサポーターの活動推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポーターによる相談支援等（県内3市へ委託） 令和2年度：育成したピアサポーター（3人）による講演会や、県内3市での相談支援（相談会）の実施、認知症サポーター養成講座での体験談の発表などを行い、ピアサポート活動の推進を図っている。
● 取組の実績	<ul style="list-style-type: none"> ○講演会（県主催） <ul style="list-style-type: none"> <令和元年度> 開催回数：1回実施 テーマ：「おれんじドアの活動紹介」、「県内市町村のピアサポート活動実施に向けた取組紹介」 参加者：87人(本人2人、家族6人、その他医療・介護関係者等) <令和2年度> 開催回数：1回実施 テーマ：「認知症の人の社会参加」 参加者：73人(本人2人、家族10人、その他医療・介護従事者等)



講演会の様子

<p>●取組の実績</p>	<p>○当事者同士の交流会（認知症の人と家族の会愛知県支部へ委託） <令和元年度> 開催回数 : 8回 平均参加者 : 18人（本人平均参加者数4人、その他家族、スタッフ等） 育成したピアサポーター : 3人 <令和2年度> 開催回数 : 3か月に1回程度 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催頻度を落として開催中。 平均参加者 : 11人（本人平均参加者数6人、その他家族、スタッフ等）</p> <p>○ピアサポーターによる相談支援等（県内3市へ委託） <令和2年度> 開催回数予定 : 3回 市町村が開催する講演会や認知症サポーター養成講座でピアサポーターが自身の体験談を発表するほか、ピアサポーターによる相談支援等を実施予定。</p>
<p>●取組の効果</p>	<p>【行政の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度はピアサポーターの発掘・育成を目的とした当事者交流会を開催し、新たに3人のピアサポーターを育成・確保するとともに、他県で活躍するピアサポーターによる講演を行うことで県内でピアサポート活動を行う土台を構築することができた。 ・令和2年度は本県が育成したピアサポーターによる講演会、相談支援等を行い、県域でのピアサポート活動、本人発信支援を行う段階へ進むことができた。 <p>【認知症当事者の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症のこと、ピアサポートのことを多くの人に知ってもらえてよかった。 ・参加することでいろいろな方たちとの繋がりができてよかった。 ・この先どうなるか心配だったが支援してもらえることがわかった。 ・ほかの認知症の方たちとお話しできてうれしい。
<p>●活動経費（財源）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会 講師（ピアサポーター等）への謝金、旅費など 94千円 ・当事者同士の交流会 委託料（ピアサポーター謝金、旅費、会場費、役務費、需用費など） 931千円 <p>財源：認知症総合戦略推進事業（ピアサポート活動支援事業） 512千円、県一般財源 513千円</p>
<p>●その他、特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でピアサポーターとして活躍できる認知症当事者を発掘・育成するにあたり、家族の会、関係市町村と連携して当事者交流会の場を活用することで、候補者の把握や育成をスムーズに進めることができた。 ・県内でピアサポーターを育成しピアサポート活動を実施することにより、地域版本人希望大使の候補者の選定や、認知症に関する本人発信支援の取組に波及することができた。



当事者同士の交流会の様子